

脚気をめぐる高木兼寛とドイツ医学派の対立

脚気は栄養バランスの異常から生じる

 高木兼寛 <small>かねひろ</small>	鹿児島 医学部入学 1869(明2)~	海軍省出仕 1872(明5)	イギリス留学 1875~1880 (明8~明13)	海軍医務局長 1883~1892 (明16~25)	海軍軍医總監 1885(明18)	男爵 1905 (明38)
	脚気はタンパク質が少なく炭水化物が多すぎる食事の場合に発生すると主張。窒素：炭素=1：15を大きく逸脱すると脚気になる（窒素はタンパク質にのみ含まれるので、窒素と炭素の割合で示される）					



ドイツ医学派

① 脚気細菌説

 石黒忠恵 <small>ただのり</small>	医学所入学 (東大医学部前身) 1865(慶1)~	兵部省出仕 1871(明4)	陸軍医務局長 1890~1897 (明23~明30)	陸軍軍医總監 1890 (明23)	男爵 1895 (明28)	子爵 1920 (大9)
	・陸軍軍医制度の基礎を築く。ドイツ医学派の勢力伸張に努める ・1879(明12)~1881(明14)に東大医学部綜理心得(学長代理)兼務 ・脚気はばい菌による感染症と主張 ・森林太郎の上司					
 緒方正規 <small>まさのり</small>	東大医学部卒 1880(明13)	ドイツ留学 1881~1884 (明14~明17)	東大医学部初代衛生学教授 1886(明19)	東大医学部学長 1898.9~1901.9 (明31.9~明34.9)		
	・日本における衛生学、細菌学の基礎を築く ・1885(明18)年、“脚気菌”を発見と発表。“官報”に掲載される ←後に北里柴三郎により否定される					
 青山胤道 <small>たねみち</small>	東大医学部卒 1882(明15)	ドイツ留学 1883~1887 (明16~明20)	東大医学部内科学教授 1887(明20)	東大医学部学長 1901.9~1917.9 (明34.9~大6.9)	男爵 1917 (大6)	
	・「予はベルツ及びショイバ氏（両者とも来日したドイツ人医師）らの唱導せる『脚気伝染病説』に信をおくものなり」脚気細菌説を生涯主張 ・16年間東大医学部学長は群を抜いて歴代最長 ・森林太郎は盟友					

② 麦飯のタンパク質は白米よりも吸収が悪く、高木説はおかしい

 大沢謙二	医学所入学 (東大医学部前身) 1866(慶応2)~	ドイツ留学2回 1870~1874 1878~1882	東大医学部生理学教授 1874(明7)	東大医学部学長 1890.11~1893.9 (明23.11~明26.9)		
	・東大医学部初の日本人教授。日本の近代生理学の基礎を作る ・タンパク質を多く摂るために白米を麦飯にすべき、という兼寛説に対し、麦のタンパク質の吸収は白米に劣るとして兼寛説の矛盾を指摘					

③ 白米至上主義

 森林太郎	東大医学部卒 陸軍省出仕 1881(明14)	ドイツ留学 1884~1888 (明17~明21)	陸軍医務局長 1907~1916 (明40~大5)	陸軍軍医總監 1907(明40)	皇室博物館館長(大6) 帝国美術院初代院長 (大8)	
	・上記の石黒忠恵の部下。青山胤通と親交が深い ・兵食試験の結果、吸収される栄養(カリ-)の高い順に①白米②麦飯 ③洋食となり、白米が最も兵食として優れていると主張					

※東大医学部の名称の変遷…西洋医学所(1861)~⇒医学所⇒大病院⇒医学校兼病院⇒大学東校⇒東校
 ⇒第一大学区医学校⇒東京医学校⇒東京大学医学部(1877)~⇒帝国大学医科大学(1886)~
 ⇒東京帝国大学医科大学(1897)~⇒東京帝国大学医学部(1919)~⇒東京大学医学部(1947)~
 上の表においては「東大医学部」に呼称を統一した